

2022年 第83回 応用物理学会秋季学術講演会

特色ある分光評価法による半導体発光材料・光物性再訪 - 新しい展開を目指して -

開催日 9月22日(木) 13:30開始～18:00終了

中 暢子 (京都大)
ダイヤモンドの光物性

川上 養一 (京都大)
窒化物半導体の光物性

金光 義彦 (京都大)
ペロブスカイト半導体の光物性

遊佐 剛 (東北大)
顕微鏡を用いた分数量子ホール液体の
イメージング

中嶋 誠 (大阪大)
テラヘルツ時間領域エリプソメトリ

市川 修平 (大阪大)
時間分解2光子光電子分光法を使った
表面再結合の直接観測

半導体材料における光物性は学術・応用の両面から極めて重要かつ興味深く、そのため研究の歴史も長い。最近では、SiやGaAsはもちろん新材料の出現、さらには分析評価技術の進化も著しく、新しい半導体光物性研究の潮流が形成されつつある。本シンポジウムは、ダイヤモンド・窒化物半導体・ペロブスカイト半導体などの新奇半導体材料研究の代表的研究者ら、さらには特色のある新しい分光評価法を駆使して研究を行っている研究者らに最新成果について報告いただき、光物性再訪・新しい展開を目指した取り組みについて議論する場とする。

世話人 小島一信 山田泰裕